

活動名 東海・北陸 地域ブランド総選挙 — 小松うどん —

団体名 岸本ゼミ

代表者名 経済学部 岸本 秀一

はじめに（背景・目的・目標）

「地域ブランド総選挙」は、地域団体商標制度の普及とさらなる活用促進を目的に特許庁が開催した事業である。内容は、地元大学生と地域団体商標権者がチームを組み、取材に基づく地域の商品（サービス）の魅力を「Instagram®」上で発信するとともに、今後の新商品展開やビジネスのアイデア、PR方策等を検討する。石川県からは本学のゼミ2団体が参加し、本ゼミでは3人の学生が「小松うどん」に取り組んだ。

総選挙の予選は学生が担当の地域ブランドを取材し、「Instagram®」に投稿する。その投稿の内容及び投稿に対する「いいね」の数を競うものである。

活動内容

投稿期間は9月～10月の2か月間である。岸本ミの学生3名（3年生）は、最初にNPO法人小松うどんつるつる創研事務局をお訪ねし、小松うどんの歴史、こだわり等を調査した。



小松うどんのルーツは江戸時代の加賀藩にまで遡り、明治30年に鉄道が開通する直前の小松駅近くの角に『加登長(かどちょう)』といううどん屋ができ、広く庶民にいきわたった。現在金沢市で見られる「加登長」は小松で誕生した大衆的な「小松うどん」がルーツである。

小松うどんには定義となる八箇条があり、こだわりがあり伝承されてきた。平成22年(2010年)に「小松うどんつるつる創研」が創設され、以降加盟店を募って現在70店舗となり、一体となって「小松うどん」のブランド化を進めている。平成30年(2018年)には地域団体商標に登録された。

次の取材は、「小松うどん道場つるっと」で手打ちうどんのづくりを体験した。うどんづくりがとても重労働であるが楽しくもあることをInstagramで発信した。また、小松うどんの工場にも訪問し、その製造についても投稿した。



その後も、那谷寺にある加盟店、金沢市にある東茶屋街にある店舗を多数訪問し、試食とともに取材を続けその様子をInstagramで発信した。



残念ながら本選へ進出はかなわなかったが、活動を通して、地域のブランドに触れ、その構築に携わる人々の活動取材でき、わずかの期間ではあったが地域ブランドのプロモーションの一部に携われたのは貴重な経験となったようである。